

## 執筆者紹介

### 高橋 憲子（タカハシ・ノリコ）

早稲田大学大学院博士課程在学中

研究分野：上代日本文学、『古事記』。過去の研究発表／論文としては、2011年11月ポスターセッションに参加（題目：上代人にとっての「瀬」－「苦瀬」をめぐる考察）。2013年11月早稲田大学国文学学会秋季大会にて、『古事記』の文章に見る口承の名残り－「黄泉の国」段における「愛我那勢命」「愛我那邇妹命」について」の発表。論文は「チェンバレンによる『古事記』の訓みと英訳－その敬語意識を中心として」（『早稲田大学教育研究科紀要』別冊21号－2,2014年3月掲載）など。

### 大野 ロベルト（オオノ・ロベルト）

日本社会事業大学助教

国際基督教大学卒、同大学院修了。学術博士。日本社会事業大学社会福祉学部助教。専門は紀貫之を中心とする古典文学。博士論文「紀貫之の影－日本文学と文化の根本を探る－」、その他の論文に『古今和歌集』仮名序の真価を探る－「六義」と「歌のさま」の問題を中心に－（『アジア文化研究』第39号）など。

### KNOTT Jeffrey（ノット・ジェフリー）

スタンフォード大学大学院博士課程在学中、早稲田大学外国人研究員

専門分野は『源氏物語』の受容史。特に享受者の「読み」の歴史に重点を置き、その過渡期に当たる中世期の『源氏物語』関連の注釈資料、それと緊密な関係にある同時代の歌学資料などを対象に研究を進めている。

### 黄 昱（コウ・イク）

総合研究大学院大学博士課程在学中

主に中世の随筆の傑作である『徒然草』と漢籍の関係及び近世期における『徒然草』の漢訳について研究している。今まで発表した論文は下記の二篇。「『徒然草』における漢籍受容の方法－第二十五段「桃李もの言はねば」をめぐって－」（『国文学研究資料館紀要文学研究篇』39号2013年3月）  
「漢訳される『徒然草』－異種『蒙求』をめぐって－」（『総研大文化科学研究』10号2014年3月）

### 尤 芳舟 (ユウ・ハウシュウ)

北京日本学研究所博士課程在学中、早稲田大学外国人研究員

北京外国語大学北京日本学研究所博士課程に在籍して、今は早稲田大学の外国人研究員として中古・中世説話文学の研究をしている。今までに発表した論文は、『今昔物語集』『宇治拾遺物語』孔子譚における賢人認識—孔子と盗跖の論争を中心に—、「大伴旅人「讃酒歌」における「賢」」などがある。

### TARANU Ramona (ツァラヌ・ラモーナ)

早稲田大学大学院博士課程在学中

ルーマニア生まれ。ブカレスト大学外国語・外国文学部を卒業してから、同大学で大学院東アジア学研究所で修士課程終了。2010年ドイツのトリア大学日本学別科で博士後期過程に進む。2013年より早稲田大学大学院文学研究科に所属。研究分野は世阿弥時代の能楽で、現在執筆中の博士論文のテーマは世阿弥の本説論。

### 金 有珍 (キム・ユジン)

東京大学大学院博士課程在学中

韓国外国語大学校、日本語科卒業。東京大学大学院、総合文化研究科、超域文化科学専攻（比較文学比較文化コース）博士課程。研究分野は日本中世文学、御伽草子、特に稚児物語。2014年度中世文学会春季大会で「東京芸術大学大学美術館蔵『幻夢物語草紙』について—『西行物語絵巻』を手がかりに—」の題名で研究発表。

### CSENDOM Andrea (チェンドム・アンドレア)

一橋大学大学院修士課程修了

2009年に、ハンガリーのデブレツェン神学大学の図書館・メディア学科を修了した後、ブダペストのエトヴェシュ・ロラーンド大学の日本学科に入学し、ハンガリーに毎年行われる東アジア研究会において報告している。2011年に、ハンガリーの名声がある、第三十回国内総合学問大会、東アジア部門において、『日本と印象派 — 「浮世の影響」』という論文発表で三位賞を受賞した。2013年から2015年の間、一橋大学大学院社会学研究科の修士課程に所属しており、日本思想史と日本文学を専攻としている。

### 片 龍雨（ピョン・ヨンウ）

東京大学大学院博士課程単位取得退学（2015年3月から高麗大学校非常勤講師）

韓国の高麗大学校大学院の修士課程修了後、2006年に東京大学大学院人文社会科学系研究科の研究生として入学。以後長島弘明先生のご指導を受け、修士課程、博士課程に進学し、博士論文『四世鶴屋南北研究』を提出し、2015年1月に学位を取得する。

主に4世鶴屋南北の作品を中心に江戸歌舞伎を研究しており、『国語と国文学』（東京大学国語国文学会編）に、「南北曾我狂言における鬼王と赤沢十内」（2010年4月）などを発表している。

### RIGAULT Tom（リゴ・トム）

パリ第4 大学博士課程在学中、パリ第7 大学博士課程在学中、立命館大学客員協力研究員

パリソルボンヌ大学大学院博士課程ドイツ・北欧・オランダ語圏表象研究所、及びパリディデロ大学大学院博士課程東アジア文明研究所に所属。2014年立命館大学の客員協力研究員として来日。研究分野は日本とドイツ近現代文学、及び比較文学。これまでフランスで発表した修士卒業論文は『多和田葉子における通過の詩法』と『多和田葉子一言葉の境界において』。現在、多和田葉子の作品における独日間異文化を中心に研究している。

### 鄧 麗霞（トウ・レイカ）

立命館大学大学院博士課程在学中

中国南京師範大学を卒業後、華東師範大学大学院で修士号を取得し、2013年9月より立命館大学文学研究科博士後期課程に入学。牛島春子を中心に、「満洲国」に渡った女性たちの文学を研究している。

### 板坂 則子（イタサカ・ノリコ）

専修大学教授、日本近世文学・文化。文学博士（東京大学）。主な著書に「曲亭馬琴の世界 戯作とその周縁」（笠間書院、2010）、「馬琴草双紙集」（叢書江戸文庫33、国書刊行会、1994）、共著に「東京大学所蔵・草雙紙目録 一～五編、補編」（日本書誌学大系67、青裳堂・1993～2006）、論文に「『椿説弓張月』の琉球 …馬琴読本における怪異と異界」（『読本研究新集』第6集所収、読本研究の会、2014）、「馬琴の描く女性像」（『東アジアの文学・語学・文化と女性』所収、武蔵野書院、2014）など。

## GERSTLE Andrew (ガーストル・アンドリュー)

SOASロンドン大学教授(国際日本文学研究センター 外国人研究員)。BA コロンビア大学、MA 早稲田大学、PHDハーバード大学。近世文学・芸能の研究。Shunga: Sex and Pleasure in Japanese Art (共著)(British Museum Press, 2013)、『江戸をんなの春画本—艶と笑の夫婦指南』(平凡社、2011年)、『艶道日夜女宝記』(近世艶本資料集成IV月岡雪鼎2)(共著)(国際日本文化研究センター、2010年)、『流光斎図録—上方役者似顔絵の黎明』(共著)(武庫川女子大学、2009年)、『大坂歌舞伎展—上方役者絵と都市文化』(共著)(大阪歴史博物館、2005年)、Chikamatsu: Five Late Plays (Columbia University Press, 2001)、Eighteenth Century Japan: Culture and Society (ed.) (Allen and Unwin Australia, 1989)。

## 楊 曉捷 (ヤン・ショオジェ)

カナダカルガリー大学言語学・語学・文化学科教授。中国北京大学日本語日本文化学士(1982年)、京都大学国文学博士(1989年)。研究分野は日本の中世文学、とりわけ絵巻物。主な出版物は、絵巻研究に関連して、『鬼のいる光景』(角川書店、2002年)、「後三年の合戦を絵に聞く」(『文学』、2009年9月)、「絵巻の文法序説」(『日本研究』、2012年9月)など、デジタル技術と人文科学の研究に関連して、『デジタル人文科学のすすめ』(共著、勉誠出版、2013年)などがある。

## 土佐 尚子 (トサ・ナオコ)

メディアアーティスト、研究者、京都大学学術情報メディアセンター教授、工学博士(東京大学)。感情、記憶、意識の情報を扱ったコミュニケーションの可視化表現を研究する。フィルム、ビデオアート、CGを経てメディアアートからカルチュラルコンピューティングの領域を開拓、システム構築を行なう。SIGGRAPH(シーグラフ)ARS ELECTRONICA(アルスエレクトロニカ)といった代表的な文化とテクノロジーの国際会議にて、講演や作品を発表。NY近代美術館、メトロポリタン美術館等の企画展に招待展示。作品はアメリカンフィルムアソシエーション、国立国際美術館、富山県立近代美術館、名古屋県立美術館、高松市立美術館などで收藏されている。芸術科学会設立メンバー、現在副会長。ATR知能通信研究所主任研究員、科学技術振興機構「相互作用と賢さ」領域研究に従事。マサチューセッツ工科大学建築学部Center for Advanced Visual Studiesフェローアーティストを経て現職。HPは、<http://www.tosa.media.kyoto-u.ac.jp/>